

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成30年4月26日(2018.4.26)

【公開番号】特開2016-177489(P2016-177489A)

【公開日】平成28年10月6日(2016.10.6)

【年通号数】公開・登録公報2016-058

【出願番号】特願2015-56617(P2015-56617)

【国際特許分類】

G 06 F 15/02 (2006.01)

【F I】

G 06 F 15/02 3 1 5 M

G 06 F 15/02 3 3 0 K

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月19日(2018.3.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

入力順モードと数式通りモードとを切替えるモード切替手段と、

数値が記憶されている数値記憶手段と、

前記入力順モードにおいてリコールキーが入力された際、前記数値記憶手段に記憶されている数値を読み出して表示させる入力順モード時リコール手段と、

前記数式通りモードにおいてリコールキーが入力された際、計算式の入力状態では前記数値記憶手段に記憶されている数値に対応した変数を当該計算式の要素として表示させ、計算式の入力状態でなければ前記数値記憶手段に記憶されている数値を読み出して表示させる数式通りモード時リコール手段と、
を備えたことを特徴とする計算処理装置。

【請求項2】

前記リコールキーはリコールクリアキーであって、

前記入力順モード時リコール手段は、前記リコールクリアキーが連続入力された際、前記数値記憶手段に記憶されている数値をクリアする入力順モード時リコールクリア手段を有し、

前記数式通りモード時リコール手段は、前記数式通りモードにおいてリコールクリアキーが連続入力された際、計算式の入力状態では前記数値記憶手段に記憶されている数値に対応した変数を当該計算式の要素として表示させ、計算式の入力状態でなければ前記数値記憶手段に記憶されている数値をクリアする数式通りモード時リコールクリア手段を有する、

ことを特徴とする請求項1に記載の計算処理装置。

【請求項3】

前記数式通りモードにおいて入力された前記変数を要素として含む計算式の計算を実行する数式通りモード時計算手段と、

前記数式通りモード時計算手段により計算実行された後に、ユーザ操作に応じて前記計算式を再表示させる計算式再表示手段と、

前記数値記憶手段に記憶されている数値をユーザ操作に応じて変更する数値変更手段と、

、

前記数値変更手段により前記数値記憶手段に記憶されている数値を変更した後に、前記計算式再表示手段により再表示された前記変数を要素として含む計算式の計算を再実行する数式通りモード時再計算手段と、

を備えたことを特徴とする請求項1または請求項2に記載の計算処理装置。

【請求項4】

前記入力順モードと数式通りモードとを切替えた場合に、前記数値記憶手段に記憶されている数値を維持する数値維持手段を備えた、

ことを特徴とする請求項1ないし請求項3の何れか1項に記載の計算処理装置。

【請求項5】

前記入力順モードにおいて、前記数式通りモードのみで有効なキーが入力された際、当該入力順モードである旨のメッセージを表示させるメッセージ表示制御手段を備えた、ことを特徴とする請求項1ないし請求項4の何れか1項に記載の計算処理装置。

【請求項6】

表示部を有する計算装置のコンピュータを、

入力順モードと数式通りモードとを切替えるモード切替手段、

数値を記憶する数値記憶手段、

前記入力順モードにおいてリコールキーが入力された際、前記数値記憶手段に記憶されている数値を読み出して前記表示部に表示させる入力順モード時リコール手段、

前記数式通りモードにおいてリコールキーが入力された際、計算式の入力状態では前記数値記憶手段に記憶されている数値に対応した変数を当該計算式の要素として前記表示部に表示させ、計算式の入力状態でなければ前記数値記憶手段に記憶されている数値を読み出して前記表示部に表示させる数式通りモード時リコール手段、
として機能させるためのコンピュータ読み込み可能なプログラム。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

本発明に係る計算処理装置は、入力順モードと数式通りモードとを切替えるモード切替手段と、数値が記憶されているメモリ数値記憶手段と、前記入力順モードにおいてメモリリコールキーが入力された際、前記メモリ数値記憶手段に記憶されている数値を読み出して表示させる入力順モード時メモリリコール手段と、前記数式通りモードにおいてメモリリコールキーが入力された際、計算式の入力状態では前記メモリ数値記憶手段に記憶されている数値に対応した変数を当該計算式の要素として表示させ、計算式の入力状態でなければ前記メモリ数値記憶手段に記憶されている数値を読み出して表示させる数式通りモード時メモリリコール手段と、を備えたことを特徴としている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

本実施形態では、このとき、前回の計算処理において、前記メモリ数値データエリア12eに既に数値“10”が記憶されており、表示部17の上段にメモリシンボル[M]が表示される。